

○ 4-3 その他

コールサイン	その他の意見
7L2LEG	<p>・FDコンテストと全市全郡コンテストの入れ替えにより、全市全郡が屋外での活動において死者が出ることが予想される時期に変更となるわけであるが、このコンテストには同然のことながら移動局の参加が見込まれ、そのような局にとっては、FDコンテストの過酷さを超える、24時間の屋外活動はまさに「生きるか、死ぬか」の選択を迫られるコンテストになることは自明の理である。JARLとしても死者を出すコンテストの開催をたくはないうから、全市全郡コンテストにおいては、移動局の参加を禁止(商用電源以外の電源の利用を禁止とか)し、危険性の高い屋外活動の局をコンテストから締め出すべきである。</p> <p>・年4回ものメジャーコンテストの開催は、アマチュア局数がつるべ落しの様になる昨今においては、過剰な開催と考える。FDコンテストを現在の全市全郡コンテストの日程に移動したことで、全市全郡コンテストを消滅させても良いと考える。HFのALL JA、VUの6m&Down、移動運用のFD。残存するコンテストでも十分楽しめる。</p> <p>・地方コンテスト、クラブ主催コンテストなど、様々に開催されているが、まるでコンテストの開催時間に統一感が無い。管内局が皆無に等しいのに、48時間も長時間を設定している(既得権の確保のためか?)コンテストもあり、うんざりするものもある。(そのようなコンテストには参加も検討しないが。) コンテスト開催時間のガイドラインの設定をしてもらいたい</p> <p>例えば クラブ主催 3時間以内を推奨、最大6時間まで / 県(支庁)主催 6時間以内を推奨 最大9時間まで 地方(エリア)主催 9時間以内を推奨 最大12時間まで など、考えられる。その他、隣接県、又は遠方の県との合同開催とか、開催の工夫のしようがあるのではないかと。 ・コンテストに、強制休養時間を設定する。例えば、6時間を超える連続した運用を禁止し、60分以上の休息を取らせるようにする。更に、コンテスト期間中に3時間を超える休息を1回取らせるなど、参加者に優しい施策を取り入れるべきと思う。QSOのタイムスタンプから休息は審査側で確認できると思う。 ・海外局の参加を認めていないコンテストにおいては、出力の上限を設けるべき。たかが日本国内相手に、KWなどの不要な出力の低減は必要と思う。</p>
7L2LEG	<p>・FDと全市全郡のスイッチングであるが、いっそのこと合併して、全市全郡の日程にFDを組み込んでどうか。即ち、商用電源を用いない移動局にはFDの係数×2を与え、マルチは全市全郡の市郡区単位とする。開催時間については、6m&Downと同じ21:00-15:00とか、全市全郡をそのまま残して24時間とするとか。コンテスト名称は「全市全郡フィールドデーコンテスト」。</p>
JH4UYB	<p>①50MHzCW周波数の設定を以前に戻すよう希望 :ある年に極一部のDX愛好局の個人的な案に十分な論議も周知もなく、急に周波数が50250-50300kHzに変更されてしまいました。このおかしな周波数設定のため、地方支部をはじめとしてほぼ全てのコンテストでこの周波数が設定されてしまいました。それに追従して日常のCW QSOでも慣例の50050-50100kHzを使うことが悪のように思われて、CWはいいけど運用したらよいか混乱→減少→衰退となってしまいました。2017年から50MHzDXは50273,50313kHzのデジタルモードとなり、50050-50100を空けておく理由が無くなってます。 早急に他のバンドと同様の50050-50090kHzに戻すことを希望します。</p> <p>②160mバンド復活の話は一体どこへ行った? :2012年-2013年にルール改定の意見公募を行い、その結果として160mバンドの復活を決定したはずですが、それを知った一部のDX愛好局の反対意見に屈して、いきなり決定を破棄されてしまいました。このバンドも当時とは様相が一変し、1840/1908kHzのデジタルモードが主流となり、1810-1825kHzはほとんど使用されてない状況です。地方支部主催やKCJ主催コンテストでは1908-1912kHzが主流で盛況で長年うまく運営されています。JARL本部主催コンテストではM/Mで運用する社団局の扱いをどうするか調整が必要ではありますが、「2015年のFDコンテストから実験的に160mバンド使用を再開し、詳細を検討協議する。」という決定を是非とも実行に移していただきたい。少なくとも決定し公表した事項を極少数の反対意見で破棄することなきやう、決定事項の重みを重視して再度検討頂きたいです。</p>
JH5GHM	<p>① HF帯を使用するいずれのJARLコンテストでも海外局の参加を認めるべき 理由) 太陽黒点数が低迷している時期ですらローバンド帯では近隣諸国とのQSOが可能であり、日本国内しか有効QSOとならない状況は近隣諸国からするとコンテスト自体迷惑であり、日本国内のアマチュア局減少傾向からしても日本国内のみ有効とするのは将来的に立ち行かなくなるため。</p> <p>② HF帯を使用するいずれのJARLコンテストでも海外局の参加を認められないならHF帯での最高出力を5Wまでとするべき 理由) 海外に届く程度の出力の必要性がないため。</p> <p>③ 夜中の2時から明け方の5時はQSOのポイントをその他の時間帯の数倍とするべき 理由) この時間帯は3.5MHzを除くと1時間に数局程度しかQSOが見込めず、体力を浪費する程度が大きく「楽しむ」という趣旨から大きく乖離している。この時間帯のQRVを促すためにもポイントを大きくすべきである。</p> <p>④ 夜中の2時から明け方の5時のQSOのポイントを変更できないのであればこの時間帯は3.5MHzを除いてコンテスト休止時間とすべき 理由) コンテスト運用者がこの時間帯にQRVする楽しみがあるとすれば到底思えず、日中のコンディションに向けた体力の温存にもなるため。</p> <p>⑤ コンテストのログはサマリーシート無しのCabrilloのみも有効とすべき 理由) AA DX CWやAA DX SSBでCabrilloのみの提出を認めているのに他のコンテストでも受け付けられない道理的な理由がないため。</p> <p>⑥ Cabrilloにて提出されたログに記載されているオペレータ情報の公開 理由) WRTCの予選としてもAA DXは使用されているが、Cabrilloに記載されたオペレータ情報が重要である。マルチオペレータに限らず、シングルオペレータでもこの情報を参照して予選の状況を把握しているためマルチオペ、シングルオペにかかわらずオペレータ情報を公開すべきと考えるため。</p> <p>⑦ 提出されたログの公開 理由) 他局の運用やその地域でのQSOの状況を客観的に知る上でも有効な手段となるため。また、JARLコンテスト委員会の一部の方はJARLコンテストでも上位に入賞しているが、これらの方はログの中身を知り得る立場にあると邪推する。このような方が提出されたログを参照し、コンテストの戦略に利用していることは外部からすると否定できず公平さに欠けるため。</p> <p>⑧ コンテストの結果や統計情報のデータベース化 理由) コンテストの結果のみを公開しているのは海外のメジャーな無線連盟の中でもJARLぐらいである。JARLのプレゼンスを高めるためにもコンテスト結果のデータベース化は有効と考えるため。</p> <p>⑨ ログ提出の期限をコンテスト終了後1週間程度までとする 理由) ログを提出するの1週間以上必要な道理的な理由が見当たらないため。</p> <p>⑩ 上位入賞対象局の紙ログの提出は認めない 理由) 上位入賞するぐらいの局は相応の情報処理を実施しているとみなすことができ、紙ログ提出者は上位入賞対象局となることは想定する必要はないと考えるため。</p> <p>⑪ ログ提出期限から1週間程度で生ログ集計あるいは自己申告スコアによるスコア発表を実施する 理由) 一部人手による審査があるにしても多くは情報処理によってスコア計算されていると邪推している。人手による審査前であれば機械的な処理結果の発表は可能であり、現状の半年近い発表まで待たずとも参加者は状況を知りえて、次のコンテストへのモチベーション向上に貢献すると考えるため。</p>
JQ1BVI	<p>50Mのコンテスト周波数について、以前のコンテスト周波数(CW50-90、SSB250-)に戻すことを提案します。理由 1) 50. 300UPではコンテスト参加のSSB局とデジタル運用局の混信が生じている。2) 50. 250-300ではコンテスト参加のCW局とSSB運用局の混信が生じている。3) 異なるモードの混信は、同一モードの混信と異なり混信回避のコミュニケーションが困難である。このコンテスト周波数に変えた理由として「海外局との混信」が挙げられていました。しかしながら、海外局との交信のメインが、ここの二年でCWからFT8と変わったため、現状のままでは、むしろ海外局との混信が助長される結果になっています。バンド有効活用の観点からも、ご検討いただくようお願い申し上げます。</p>
JO1FRI	<p>JARLコンテストの一部時間短縮化を図っていただきたい。無線局が減っているのに、24時間も行う必要がないと思う。真夜中にそんなに交信局数が増えるとも思えない。もっと時間短縮(例えば3や6時間程度)を図り、集中して行えるコンテストもあってよいと思う。</p>
JA1ABC	<p>・結果速報の実現 ログ照合の機械化が相当進んだものと推定できるが、結果の発表は旧態依然として速くはない。海外コンテストを見習って、速報後の訂正を恐れず速報を出して頂きたい。そうすることにより、若手コンテスターのモチベーションアップになる。</p>
7L1EYY	<p>紙によるログ提出は今後一切禁止し、全て電子化すべきである。理由は結果の発表が遅すぎる。電子化し締切日に瞬時に集計・発表できるようにすべきである。技術を追求する趣味である無線技士がパソコンすら自由に使いこなせないのは非常に問題で自己責任で直ちに改善すべきである。これらのITリテラシーの低い参加者の為に非効率的な業務を残すのは組織として非常に生産性が低いと言わざるを得ない。赤字組織であるという事を強く認識し、効率化を第一に活動してもらいたい。</p>
JF4CAD	<p>コンテストマルチの地域偏在を解消してください 8エリアには14ものマルチが設定されていますが、例えば東西南北で言えばほぼ同じ広さを持つ沖縄は1つしかありません。 6DコンテストなどではEsがオープンすればマルチ目当てで本土から大量に呼ばれ、通常固定局のいない8エリアのマルチに移動運用すれば上位に食い込めることが知られており、実際のところ「北海道に移動したものの勝ち」のルールになっています。これはマルチ設定の不適切に起因するもので好ましいとは思えません。 8エリアは現地の新聞やテレビで広く使われている「道北・道東・道央・道南」の4つに絞るとともに、距離が離れており電波伝搬上明らかに異なる以下を分割すべきです。 ・沖縄本島と先島諸島(石垣市・宮古島市)などを分割 ・鹿児島本土と奄美群島(奄美市・大島郡)を分割 ・東京本土と伊豆諸島を分割</p>
JG1XUZ	<p>Phone、CW部門に加えてデジタル部門を設けることも時代の流れかと思えます。オールアジアのルールは時代に即わなくなってきているように思います。アジアの局数が増えた今日、主催国対全世界でいよいよ思います。またコンテストナンバーに年齢を使用する意味も考え直す時期かと思えます。</p>
JF1MIA	<p>FDコンテストの固定局どうしの交信はフィールドデーらしくない。参加局確保のためやむを得ないのかも知れないが、局種係数又は得点を半分にしてはどうでしょうか。</p>
JE7HOU	<p>日程案ではFDコンテストと全市全郡コンテストの入れ替えだけになっておりますが、6m AND Downコンテストも組み合わせるとの変更もありではないかと思えます。 理由の欄にも書きましたが10月のVUは飛びません。移動運用で参加する気は全く起きません。 7月の6m AND Downコンテストは実際移動運用の方が多数を占めているのではないのでしょうか。 梅雨時期とはいえ毎日雨が降っている訳でもないでしょうし、Esやらダクトの発生が多いので移動運用には最適ではないかと思えます。7月の6m AND Downコンテストの規約を変えてフィールドデーコンテストの様に移動局には局種係数2を与えるVU限定のフィールドデーコンテストにすれば良いのではないのでしょうか。そして8月は案通り全市全郡コンテストとする。10月はHF限定のフィールドデーコンテストにする。いかがでしょうか。 当局的コンテスト参加はVUのみなのですが、住んでいるところが東北の田舎なので全くと言っていいほど相手が居ません。少しでも局数を稼ぐためにロケの良い山頂などに移動して参加しますが大都市近辺の局や、具体的には福島最南端での移動局とは交信局数で1桁2桁違います。何かコンテストやる前から結果が分かっているようなものです。このように感じているのは私だけではないと思います。参加局は減っている理由の一つだと思えます。改善策として県内JARL会員数に応じたハンディキャップを与えるのはいかがでしょうか。もしかすれば入賞?の可能性が広がれば参加局も増えるかもですね。VU限定ですが。</p>
JJ3EBU	<p>● 最大出力の制限を提案します。 国内交信において、1kW出力は必要ないと考えます。 周辺各国への影響も考えて最大出力は200Wまでが適当ではないでしょうか。 ● 参加者全員へPDF形式の賞状の配布を提案します。 WW DXコンテストなどでも行われている方式です。 コンテストへ参加するきっかけとなると考えます。</p>

コールサイン	その他の意見
JH3IJF	1)時間変更、例、HF帯だけでも以前の21時～15時に戻す 2)シングルバンドモーニング部門新設 3)局種係数の見直し、固定局との差を大きくする、例、2を3にする 4)移動運用なりすまし防止策、ログにスマホ画像添付などの義務付け
JP1LRT	今回の意見募集で、50MHz帯のコンテスト周波数の変更を求める意見が一部の方から出ると思います。 しかし周波数の変更は無意味です。デジタルと混信するという理由を上げるかと思いますが、デジタルの周波数と混在するのは50MHz帯だけではありません。他のバンド愛好家からはなんのクレームもでていないのが事実です。 デジタルの普及により、その運用周波数については周知が進んでいます。先の6m and Down コンテストにおいても回避されていました。そもそもコンテストがデジタルに混信して困る、というのは夏のマルチホップEsのシーズンだけで、しかもオープンする機会がある時間帯はコンテスト開催中の2日目の午前中がほとんどです。まれに他の時間もオープンしますが、頻度はかなり低いです。コンテスト参加側もデジタルがでてくる周波数にあえて出ることはありませんし混信があればQSYすることでしょう。 デジタルの運用周波数は、新しいモードが出現するたびに変わっていきます。 JT65の50.276MHz はほとんど運用者がいなくなっています。いつ運用者がいなくなるかもわかりません。 FT8もしかりです。USBですので 50.310-316MHzの6kHzを開けておけば良いわけで、コンテストのSSB/AMの周波数は50.300MHz から51MHzまでであるわけで、そこを使わなくてもなんの支障もないのです。 しかしレガシーなモード は永遠になくなることはありません。保護すべきは50.050-50.150MHz のいわゆる DX Windowに近い周波数です。これはこの先も永遠に変わることはないでしょう。 デジタルをやらないコンテスターからは周波数をもとに戻せ、という意見が出ると思います。しかし CW用の周波数が減る SSBとデジタルの混信は残ったままという非常にデメリットしかない案でしょう。 コンテスト用の周波数をあまりに高くしてしまうと、アンテナのマッチングからも運用者が減ってしまう恐れもあります。従いまして、50MHz band のコンテスト用周波数は現行のままでよいかと思います。 1.保護すべきはレガシーなモードのDX 2.デジタルの運用周波数は新しいモードが出現するたびに変更される 3.デジタルの普及によりその運用周波数の周知が進んでいる。 4.CW運用周波数の幅を狭くするべきではない。 5.あまりに高い周波数に設定すると参加者の減少が危惧される。
J11BIF	今回の台風15号で近くの千葉県が2週間も停電でした。 行政間に入ってアマチュア無線のボランティア対応を求めるべきでした。JARL幹部からの首都圏アマチュア無線家に応援要請があっても良いと思っています。アマチュア無線のPR(社会貢献・若手会員増加・休止局の再開)では絶好の機会喪失と強く感じています。
JA4TUJ	QSOパーティの電子申請化について、以下の提案があります。 コンテストは電子化提出が定着しつつあると思いますが、 QSOパーティについては、ステッカーを発行するため、 郵送による申請がそのまま継続しています。 これを電子化できないか？と考えています。 一例ですが、 メール/Webでのログ提出 ↓ 電子ステッカーの発行 ※方法はいろいろあると思いますが、 JARL会員(CallSign)毎のMyPageで申請/発行を管理するetc.が考えられます。 ↓ 12干支がそろったら紙AWARDの申請が可能(有料?) 紙が不要な場合、電子化AWARD(PDF)で発行 上記は、JARL会員であることが前提となりますので、非会員は従来どおり郵送による申請、ステッカーの発行になります。 また、この場合(非会員)は有料化にしてもよいと思います。 JARL会員でステッカーを希望する場合も同様に郵送になりますが、 こちらは、現状どりの方法になります。
JA5FNX	全てのJARL主催のコンテストで「サマリーなし」・「Cabrillo形式ログ」のみの提出を認める デジタル部門の追加 アシステッド ノンアシステッド 部門 追加 従来の国内コンテストに海外局の参加を認める 地方JARL支部が主催するコンテストのサマリーなしでCabrilloログへの統一 地方JARL支部自身がコンテストログを処理するシステムのJARL本部としてのサポート ハムフェア等のJARLの大きな催し物の日と内外メジャーコンテストの日が重ならないように もし、アマチュア無線のコンテストの意味合いが今のコンテスト委員会で理解できないならば役員全員の入れ替えが必要ではないでしょうか？
JH6WHN	全市全郡コンテストは海外局の参加も認めるべきです。 海外かあのJCC、JCGアワード申請も増加が見込めるのではないのでしょうか。国内コンテストの開催とAADXの開催について一緒にして検討しないでほしい。 FDの日程変更の理由の3.4.で上げられている。
JA1CTB	現状のままでは、参加者の高齢化が進むのは避けられないと思われます。この結果、そう遠くない10年以内のある年から人口分布の肩に掛かり始めて毎年急激に参加者が減るようになる可能性が大です。この対策の一つとして、国内だけでなく海外からの参加部門も設けるなど、海外局へも参加の道を開いて国際化を図ることも十分検討するべきだと思います。 国際化は、諸外国のコンテストを見ても避けられない方向性の一つであり、早めから検討して開始した方が結果は良くなると思われます。 この方向性に合致するものとしてAll ASIA Contestがあります。ここで使われている世界標準であるログ形式のCabrillo形式は、他のコンテストでも使えると思いますが、なぜかtime をAA Contest以外ではJSTとしてしまっていて、国際的なルールに違反しています。Cabrillo を使うのであれば国際的ルールのとおりUTCで統一しないと、将来、他のコンテストにも海外局の参加に移行した時に、大いに混乱することになります。 Cabrillo形式にはtimeをどのゾーンにするか定義できませんので、基本フォーマットであるUTCで書くしかありません。
JK3UFY	いつも楽しくコンテストに参加しています。今はコンテストでのQSL交換は自粛していますが、解禁をお願いしたいと思います。
JH3AGV	スポーツなど各種競技は、ルールを厳守してフェアな参加が大前提であるが、アマチュア無線のコンテストは、旧態依然の無秩序(オーバーパワー)が横行している。 スキルが重要視されるが、やはりパワーの有利性は変わらない。 この根底の所にどうルール監視の眼を光らすか、 社会全体がコンプライアンスを意識している時代なので、 電波法違反でも表彰されるという時代遅れの競技が続かないよう委員の皆様の意識を願いたい。
JR4FLW	1. RTTYコンテストを開催してほしい。日曜日1日だけでも良いと思います。 周波数帯は3R5～50MHzまでで十分。 2. QSOデータチェックメールから結果発表までの時間が長いことがある。 出来ればチェックメールと同じ日に結果を発表してほしい。 3. 郵送費削減のため、賞状のPDF化も検討してはどうか？ ログを送るとき、意見の中にその手の希望を記載すれば良いと思います。
JA3MIB	QSOパーティも電子ログ受付をしていただきたい、ステッカーはQSLカードと同梱にならないでしょうか。この際にはがきサイズのステッカーに変更すれば再トライ局も増？
JA7FKF	・QRP部門の存在意義はあるか？ 国内向けコンテストでQRPが存在する意義はあるでしょうか？ コンテストにより微妙に違いはあるが、100W超はH、10W(20W)を超え100W以下はM、5Wを超え10W(20W)以下はL、5W以下はPと部門分けされているがH,M,Lの部門間の電力は1/10倍(-10dB)毎になっているが、P部門だけはLに対し1/2倍(-3dB)にしかなっていない。なぜこんな分け方をしたのか？ 科学的でない。もし部門を分けるならH,M,Lと同じように1/10倍(10dB)の1W以下にすべきだ。 海外コンテストのように低電力部門が100W以下なら、QRP部門として5W以下でも良いだろう。海外・国内の状況を勘案して部門分けを見直してください。
JF3LEO	参加部門の見直し ・JARLコンテストというよりも、コンテスト全体に関して言えることですがコンテストに上位入賞しようと思うとCWの運用が必須となります。JARLコンテストは、運用者の技術向上、上級資格保持者育成が主目的なのではないか？個人局でSSB/FM主体にコンテストに参加する者からすれば、ものすごく違和感を覚えます。例えば、電話部門に参加制限があることで、運用歴数十年といった中堅どころの局長さんで、3級以上の資格を持たない者(CW運用しない者)は上位入賞の機会はずっと無いと思います。純粋にアマチュア無線を楽しむのであれば、このような方も楽しめる部門を新設あるいはルール改正の検討をお願いしたいと思います。
JG3LDD	すべてのコンテストの現状維持は困難。縮小も考えるべき。FDは、固定局同士は得点にならないルールに戻すべき。
7L2LEG	・表彰状の廃止をお願いしたい。経費を考えれば少ないながらも節約できる項目であることから、これを支持する。地方のコンテストではWebからの印刷で対応しているところもあり、本部よりむしろ先進的である。 ・参加種目を増やす。紙媒体の賞状の廃止により、経費の節約が達成できるので、参加種目の増加は経済的なインパクトが無い。我慢大会でコンテスト時間中無線機の前に貼り付けて上位を目指す、でしか上位を目指せない、コンテストではなく、FDのモーニング(これは評価できる)のような部門をたくさん設け、それぞれの参加者が自分に合った部門での上位を目指すよう、優しい施策をお願いしたい。 例えば、ALLJAや全市全郡コンテストの半分の時間だけ参加するハーフ、1/4の時間だけ参加するクォーターがあっても良いと思う。そのカテゴリーに電話、電話・電信、電信の各部門を設ける。たくさん1位が出ることで、楽しいお祭りになると思う。参加開始時間も参加者に任せ、コンディションを読んで、半分の時間を楽しむ、それこそ、技術、知識、経験を活かせるコンテストになると思う。 ・WW WPXだったか、何か失念しているが、海外コンテストでは参加者の提出したRaw dataをPDFで閲覧できるようになっている。JARL主催のコンテストでもそのようなシステムでの運用は出来ないものだろうか。情報の透明性の観点からは、収集したデータの公開は必然性があるように思う。

コールサイン	その他の意見
JM3ROY	All Asia DX contest!についてです。 コンテストナンバーは男性の場合、年齢を送るとなっております。 しかし、このルールは時代遅れで、最近の世界の趨勢に反していると私は申し上げます。「男性は年齢を」というルールは2つの点で問題があります。1「男とは」の問題性に関して、これまでは「男か女か」の荒っぽい二分法が一般的でした。 コンテストのルールができた当時はこれが世界の常識だったかもしれませんが。 しかし、近年は性的マイノリティに対する細やかな配慮は常識であり必須です。 例えば、性同一性障害をもつ方々はどんなナンバーを送ればよいのでしょうか。 太い男性の声で、「ゼロゼロ」を送れば、相手は「ルールを理解していない」と判断し、「年齢は？」と聞き返してきます。 それに対して、「実は・・・」とコンテスト中に訳を説明しなければなりません。 これが実情です。2「年齢」というプライバシー事項の問題また、男性でも自分の年齢というプライバシーを全世界に向けて広報するのに抵抗をもつ男性は多いと思います。 住所や送信パワーは自分の意思で選ぶことができますが、年齢は、自分では如何ともしようがない特性です。 こんなプライバシー情報を強制的に放送させられるのは、大変苦痛です。 コンテストナンバーは、自分で恣意的に選択できる種類にするべきです。このような理由で、「男性は年齢を」のルールは即刻やめていただきたいと思います。 「現行ルールが嫌なら参加しなければよい」と片づけられるとしたら、コンテスト委員の品性を疑わざるを得ません。 どうしても年齢をはずせないというなら、男性も「ゼロゼロ」に類する年齢を明らかにしないナンバーも可能なルールに改善してください。以上の私の意見に対して、委員会としてどのように判断・対応されるのか、できれば、ご回答をいただければ幸いです。 以上、ご高配をお願い申し上げます。
JM1EKM	ALL JA、全市全郡コンテストの開始時間の繰り上げ 移動運用で参加した場合に撤収が深夜に及び翌日の仕事に差し障るため、19時開始、終了を希望する。
JR5HWQ	私は、QSOに対し、相手局から、不要(NOQSL)、1WAYで発行(当局の発行は不要)と指定されない限り、100%発行する派、ですが、QSLカードの転送は、コストアップになるため、あたかも、コンテストも移動運用もすべての交信に対して発行するのは、悪であるかのような意見、闇雲に紙ベースのQSLカードを発行するのは止めましょう、的な意見が、ブログにアップされていたり、QSLカードに記載されている場合も、あります。 JARL版LoTWの計画も進んでいないようですし、JARLとしての、見解はどちらでしょうか？
JG2QUM	ALL JA & 全市全郡：開催時間ですが、現在の21時開始を例えば15時開始に変更してほしい。そうすれば、土曜日15時開始⇒日曜日15時終了なので、撤収する時間ができます。移動運用する場合、21時終了だと次の日の仕事や学校の関係でフル参加が難しいです。現在、ほとんど土日休みですので、土曜日15時開始も十分に可能はずです。 Field Day：今までの土18時⇒日12時はちょうどよいです。日曜日12時に終了すると撤収する時間が十分にあって、また交通渋滞に引っかかる前に帰れます。
JH1EAF	コンテスト期間中のQSL交換自粛についても、様々な無線の楽しみ方の選択肢を狭める弊害もあり、会員の自主判断に任せたいほうがよい。 ビューアの負担軽減については積極的に電子QSLシステムの構築に努めることが長期的に鑑みてベターかと思われます。
J17GBI	JARL4大コンテストという「名」にこだわらず、スリム化する。春はオールJA、夏は6m&ダウン、秋はFDが良い。もっと言えば、「JARL2大コンテスト」に絞って良い。 ・オールJA(県ナンバー)と6m&ダウン(市郡区ナンバー) または ・オールJA(県ナンバー)とFD(市郡区ナンバー) とすれば、コンテスト委員の負担も減るのではないかと回数や絞りを、中身を吟味してニューカマーを呼び込むことを考える。経費を浮かせ、浮いた経費で参加者を増やす施策を行う。非会員であっても成績優秀者には賞状を出すなど。
JA3IEZ	この意見の提出先が、ジャーナルニュースには見当たりませんでした。 ホームページからどうにか見つけることができましたが、ホームページを見ない／見れない人には意見が提出できません。このようなことでは意見募集にはなりません。 10月7日に届いた、メールマガジンには、お詫びとともに提出先が掲載されていましたが、これも、見れない方が大勢いることと思われます。
JO3OMA	各コンテストのニューカマー部門について、コンテストによってエリア毎、全国区と分かれていること、大人も子供も同じ土俵ということもあって、大都市近郊を除くと、子供のニューカマーの入賞チャンスはあまりないと思います。16歳未満を対象者として、電信・電信電話ともシングルOPマルチバンド、シングル各バンドにジュニア部門を新設してはいかがでしょうか。
JA6JHH	現在フィールドステーションAが局種係数2で優位にしてあるがコンテスト中にフィールドステーションAであることをアナウンスしてこの局と交信したらポイントが上がるようにしたら移動局の優位性がより上がり移動が楽しめると思う。
JA3LZS	コンテスト使用周波数帯について意見を述べさせていただきます。 現在、50MHz帯での使用周波数は電波が50.250-50.300MHzとなっておりますが、この周波数はバンドプランでは電信専用ではありません。そのためコンテスト期間中に電話と電信の混信が発生して運用し辛い状態になっています。そこで、50MHz帯の電信の使用周波数を144MHz帯と430MHz帯と同じ50.050-50.090MHzに変更をお願いいたします。 3.5MHz帯から430MHz帯までの周波数帯の中で50MHz帯だけ特異的に電信専用以外の周波数帯に設定されていることは理解に苦しみます。 何卒、不都合が生じている現状を鑑みご検討のほどよろしくご願ひ申し上げます。
JK7UST	コンテスト委員会の活動が活発で、素晴らしいと思います。
JA93182	QSOパーティの期間延長について 20交信でステッカー配布がある限り、初日午前中のスプリント勝負とノルマ達成したら引っ込む現象は解消しません。よって期間を延長しても抜本的解決には至りません。いっそステッカーを廃止して、コンテスト形式にすればいかがでしょうか。フィールドデーコンテストの日程変更について 開催時間を何時にしようか熱中症リスクがコンテスト中か準備撤収中かの違いだけで、ACAGと入れ替えても移動運用する人は必ず居るのだから、参加者の健康を第一に考えるなら真夏のコンテスト開催をやめた方がいいです。6m AND DOWNは爆弾低気圧、ACAGもスーパー台風が来るからやめましょう。国内はALL JAだけ残して、空いたリソースはAADXの拡充へ回してください。電話部門はACAGが抜けて空いた枠へ変更(Oceania DXとかぶりますが)、QRP部門新設、Crimed Score速報、ついでにワールドワイドコンテストに改変していただきたいです。
JH8KYU	参加局減少もあり、空振りCQの我慢大会のようで、ちっとも面白くないような。見かけ上でも交信機会を増やす方法を何度か提案してきましたが、今一度検討できないだろうか？まず、同一局との交信は、モードが異なっても同一バンドで1回しか得点計上されない点を変更し、電信・電話1回ずつの計上にしてはどうか？参加者数が変わらずとも、単純に交信機会が倍近くになるはず。そろそろ時代遅れになりそうだが、RTTYも含めて1バンド3回計上でも良いかも。得点だけでなく、マルチすらもモードごとにも良いかもしれない。また、関古鳥のシングルバンド部門は6DとFDぐらいにして、マルチバンド種目だけのコンテストも良いと思う。昔のオールシティのように。当然、モード別の部門もやめる。モード別部門やバンド別種目の有無や種類は、全部のコンテストに一律でなく、コンテストごとに特色があって構わない。
JL1JAH	近年、自然災害が増え、その規模も巨大になりつつあります。交通機関や一般のイベントが台風等で事前に中止になると同様、コンテストにおいても、延期、中止という決断をしていただきたい。コンテストを中止して身の安全を図るとともに、災害発生時の非常連絡手段としての役割も担えると、アマチュア無線の地位向上にも役立つと思われます。アマチュア無線という性格上、コンテストが始まってから、「今回のコンテストは朝9:00まで」とアナウンスしても、遅くはないので、こういった検討してほしい。
JA1RRA	コンテスト表彰状・参加賞をWebからPDFファイルでダウンロードできる方を希望します。 CQ WW にて実施されているようにすれば事務局の煩雑さも低減されると思います
7K1III	All Asiaコンテストでのコンテスト番号に年齢以外にしてほしい。
JK1MLY	シルバーはシングルオペがあるのにジュニアの区分が無いのを改善して欲しいです。また18歳以下だけでなく20代まで、あるいは25歳ぐらいまでの社会に出ていてそのまま続けていきそうな世代のクラスが欲しいです。 高校生、大学生は卒業により離れてしまう人も少なくないように思え、こういった人たちがクラブではなく個人参加で続けていく際に、kWでアンテナファームを持つOMと別なクラスで戦えたらと思ってです。
JJ5AKK	意見1: 全市全郡コンテストを8月開催としたうえで、開催時間の短縮を希望します。 開催時間: 18時から12時に短縮 理由: 自分もそうですが、普段と違う珍しい場所からの参加を考えて移動する局も多いと思われます。 盛夏の開催であることや多様化する休日の過ごし方なども考慮して時間短縮を希望します。意見2: 6m & Dコンテストの開催時間帯の変更を希望します。 開催時間: 18時から12時に時間帯を変更(時間数は同じ) 理由: 移動する局も多いと思うので、早く始めて早く撤収がよいと思います。 時間帯を変更することによる交信局数への影響はごく少ないと考えます。
JO7MJS	案件の要望1: 電信電話部門に限り、同一バンドの電話モード、電信モードどちらのQSOもポイントになる様にさせていただきたい。近年、コンテスト参加者が減少傾向である為、特にシングルバンドでの参加は、局数が少ない為、空き時間が長い傾向にあると判断しています。XPOコンテストの様に、同じバンドで同一局と電信、電話の両モードでQSOした際、どちらのQSOも有効になるルール改定を検討していただきたい。一時的にでも改定し、コンテスト参加人口が増えた頃に再度改定もベターでは。案件の要望2: オールJAが全市全郡のどちらか、固定局の送信出力を200wまで、6m & Downの50MHzも固定局は200wまでとするのはいかがでしょうか。その方が、面白い気がします。
JO1KVS	ハムフェアの入場者数が土曜日のほうが遥かに多い(理由は掘り出し物は土曜日にしか無いから、でしょうが) 現実を見ていただき、土曜主体のコンテストが無い問題も考えていただきたいと思います。 コンテストで頑張った翌日の日曜日、のんびり昨日のことを話題にして過ごす、というスタイルにするのはいかがでしょうか。 私は日曜日は家業のスケジュールでコンテストに出れない時間帯が多くあるため、JARL主催のコンテストフル参加出来ず、いつも苦しい思いをし続けています。毎年曜日が変わる日に指定の祝日だと大変ありがたいです。結果、短時間のスプリントコンテストくらいしか本気で出ようと思わなくなりました。少し出てもたまたま交信した相手だけにポイントをえこひいきするようで、もうほとんど出ていません。 土曜日だけのコンテストとか3時間だけのコンテストとか、いろんなパターンでのコンテストを開催してほしいと思います。 最後にお願ひです。平日の144・430MHz帯の不法、違法運用で埋め尽くされているバンドを、逆にコンテストで埋め尽くす「不法・違法運用撲滅コンテスト」を開催してほしいと思います。開催時間は午前9時から午後5時まで、月曜日から金曜日、同じ局とは午前・午後それぞれ各バンド1交信まで認める。80条報告の通数もマルチとして認める。サンデー毎日の局長さんは結構いらっしゃるはずですから。
JJ1MRC	JARL NEWSに記事されるコンテスト、QSOパーティー等の案内や規約に、目的や主旨についての記載を希望します。どこかに記載されているのであれば、その参照先の記載を希望します。アマチュア無線には暗黙の了解が多く、新たに始める者にはそれが障害となり、結果参加しづらいつと感じます。(例えばフィールドデーコンテストは移動局の免許範囲であれば良いのか、屋外に移動しなければならないのか、よくわかりません。)

コールサイン	その他の意見
JG5DHX	1) FDコンテストの得点 フィールドデーステーションとフィールドデーステーションの交信:2点 フィールドデーステーションとホームステーションの交信(注1):2点 にしてはどうか。ホームステーション同士が1点なら、メインの移動局は2点にしてもよい。 2) AAコンテストに、デジタル部門の新設。
7M1GYH	6月にJARL各支部主催のコンテスト+他コンテストが輻輳して実施されていますが、もう少し調整できればと思います。 今年を例にすると特に6/2(日)の9時~11時は4つのコンテストが重なっており、7MHzのみならずハイバンド+6mも国内DXがオープンする時期なので各コンテストの分散化が望ましいと考えます。
JG1SNX	数や点数を競うのも通信技能を鍛えるという点では意味があると存じますが、ゆっくりと愉しめるコンテストもあってよいのでは。
JR9TUG	改悪には反対します
JK1LCB	参加部門を「電信電話」「電信」「電話」の3部門にしてほしい。現在も「電話」部門はあるが、10W(20W)以下で14MHzには出られない。 現在、上級資格を持つ電信をやらない局は「電信電話」でエントリーしている。電話しかやらない局のためにフルパワーで楽しめる「電話」部門を設けてもらとうありがたい。
JA1XCZ/4	現行の全市全郡は区もマルチなのでまるでAJAコンテストだ、区マルチを廃止して本来の全市全郡にすれば地方からの参加ハンディも少しは解消される、ルールとはなるべく平等にするべきだと。現在アマチュア無線福山のメンバーとしてJARL開催コンテストに参加しているが、6D・FDの地方からの参加は余りにもハンディがありすぎだ。
JR8PPG	14MHz帯SSBにおいて、コンテスト周波数をずらして欲しい。14.150-250等 14.250-14.300のうち、14.270前後はDX周波数として使われており、DX愛好者からQSYを要請されるのでコンテスト参加者は14.250付近と14.300付近を使用せざるを得ない。そろそろ電力符号は廃止して貰いたい。今更何か意味があるのですかね？
JN1NCB	* 50MHzのコンテスト周波数がなぜ CW:50.250~50.300 SSB:50.300~ なのか、再度伺いたい。(ANTの調整に関係するのかな?) CWは、50.050~50.090でもよいのではないかな。 SSBは、50.250~でもよいのではないかな。 * ALL JAとALL ASIAN以外のコンテストは、出力設定を50W以下、またはせいぜい100W以下にしたらどうだろうか？ ハイパワー競争になっていると思われる部分が多く、上記の2コンテスト以外は、大出力にする必要性を感じないため。 (ALL JAとALL ASIANは海外局とのQSOがあるため仕方ない)
JS2DJM	現在、主に和文電信にて運用しています。 コンテストについてはあまり興味がありません。なので、コンテストの実施にあたっての意見はありませんが、コンテスト周波数についても改めてご検討いただきたいのです。 私のようにコンテストに肯定的になれない局の運用できる周波数を各バンドもう少し用意しておいていただけませんか。また最近では、PCの高性能化のためか提出ログの相互チェックを行い、完全に交信が成立したかどうかで得点が決まる規約のコンテストも見受けられるようになりました。そうなりますと、コンテスト参加局と意図せずQSOしてしまった場合、こちらはログの提出をするつもりがないため、相手局に気の毒なことになってしまいます。
JR4VEV	(1)フィールドデーコンテストの開催時間を、2100~翌日1500の以前の時間に戻してほしい。 (理由)私の所属している社団局では、毎年のフィールドデーコンテストへの参加がほとんど唯一の行事となっています。熱心に運用する者だけでなく、親睦を深める(飲食や歓談)者も多く、各自それぞれの楽しみ方で山上のキャンプ場で一晩を明かしています。以前は夕方までにアンテナ等を設置し、皆で夕食を摂りながらコンテストの作戦会議を兼ねた全体ミーティングで盛り上がっていましたが、現在の開催時間に変更になって以降、クラブ全体で親睦を深める時間が失われてしまっています。 (2)フィールドデーコンテストにおいて、移動しない局同士のQSOを無効としていただきたい。 (理由)フィールドデーコンテストの目的は、「野外へ移動して運用するアマチュア局との交信をはかるため」とされているとおり、元々移動して運用する局が有利なルールとなっていました。ルール改正で移動しない局同士のQSOが有効となったため、他のコンテストとの性格の違いが薄くなってきています。移動しない局が参加する場合は、出力は50Wまでに制限されていますが、今年のフィールドデーコンテストでは、ALLJA、6m&Down、ACAGでの常勝4エリア強豪局が移動しない局として参加し、抜群のロケと設備でかなり稼いでおられました。今年のリザルトがどうなるか注目しておりますが、苦勞して「局種係数2」となるよう工夫して運用している参加者が報われる、フィールドデー独自のルールに戻るのが良いと思います。
JA7KPI	全市全郡コンテストは地域間格差が大きいコンテストと認識されている。大都市近郊は市区が多く存在し、地方局には不利。これを是正するため 規約を改正すべきである。 まず、東京都特別23区以外の区マルチを廃止する。さらに得点は自局と同一エリアを1点、異なるエリアを2点とする。以上の検討をお願いしたい。
JH1HGF	全市全郡コンテストを8月に実施する場合でも移動局もあり、今年までは翌日が振替休日であったので撤収で多少遅くとも体を休める事ができた。しかし今後8月に変更する場合は翌日仕事等に支障がでることも考えられるので開催時間を18時から18時までの検討をお願いしたい時間の変更をする場合、ALLJA、6m AND DOWNも開始時間をあわせての方がわかりやすい
JR4ERC	逆にコンテスト委員会に質問であるが、JARLとして、酷暑期の野外の移動運用は否定するという意思表示であり、酷暑期の野外の移動運用を前提としたイベントは実施しないということでもいいのかと聞きたいが、如何か？
JA3MMR	・コンテスト時のQSLカードは原則発行しないようにする。 ・通常のQSL発送、受領は枚数の制限を設ける。 何枚までは現行通り、何枚から何枚はいくらか負担の様に(ビューローの負担軽減=財政の健全化) 例えばDXの局の中ではカードを受け取る側にも費用の負担が発生するそうです。 ペラペラの片面白紙でデータのみで当該局のコールサインもどこに書いてあるかわからないようなカードは要らん
JA4EHG	あと、移動している側からの意見ですが、ホームステーション間の交信がカウントされるのは変です。 そもそも何のためのフィールドデーコンテストか、移動して運用する側は移動していない局から呼ばれるのが楽しみなのに、上限50Wの移動運用なのにホームステーションの方がはるかに強力等々、フィールドデーコンテストでは「ホームステーション間の交信については得点がない!」に戻してほしい。 以上、色々意見と愚痴を書きましたが夏のフィールドデーコンテストが無事行われますように。
JH0TIS	はじめに このように、意見を募集するのは、素晴らしいことだと思います。敬意を表します。ぜひ、多くの人の意見を集約して、みんなとコンテスト委員会の英知を集めて、2020年を、日本のアマチュア無線コンテストの改革試行年としましょう！ それぞれの項目への私の意見を述べる前に、二つお願いがあります。 要望の第一として、多数決では決めないでいただきたいです。アマチュア無線の、そしてコンテストの将来像を考えて、委員会ですっきり検討して、判断をしていただきたい。多数決で自動的に決めるならば、委員会がある意味がありません。「サイレント(マジョリティorマイノリティ)」の意見もくみ上げてください。 もう一つのお願いは、2020年はオリンピックがあるので、特別な年として、例外扱いをして、改革は、じっくり考えて、2021年以降にしてほしいです。2020年のみ、体育の日が10月から7月へ、移動します。2020年は、ハムフェアも移動しますし、特別な年として、実際の改革は、2021年以降にして、じっくり時間をかけて考えてみてから、実施しては、どうでしょうか。 そして、2020年限定で、私の提案 1 フィールドディコンテストの五輪期間中の実施を避ける(ハムフェア同様に特別な年として) 移動候補日 9月の4連休、あるいは5月6日。5月はまだ学校クラブに入って日が経っておらず、無線従事者免許を取得出来ない部員がいるので、9月の方がベター。9月4連休中の既存のコンテストには、2020年だけお許し願いたい。 2 全市全郡コンテスト 例年通りの開催。 3 他にコンテスト実施可能日は、2月23日天皇誕生日が考えられる。 2020年は、2月23日が日曜で、翌24日が振替休日。フィールドディには、寒く雪がある地域があり、不向き。 要望 とにかくコンテストへの参加が増える工夫が、必要だと思います。このままだと、先細りしてしまうことが目に見えています。現状でも、せっかく、エスポが出たり、コンディションが開けても、盛り上がるのはほんの短時間で、すぐに相手がいなくなってしまう。 1 スポンサーを募って、全ログ提出者の中から、賞品を贈呈してはいかが！参加者が増え、活性化するために、いかがでしょうか。JARLから、販売品をプレゼントしたり、あるいは、割引券のプレゼント。CQ出版社からは、CQ誌一年分や、販売品の割引券等。JAJA等の無線機器メーカーや販売店、印刷会社等から、無線機やアンテナ、発電機や移動関連グッズ等や、あるいはその割引券等を。CQオームさんや富士無線、印刷のアイキューブ等、協力してくれるのでは？ 高尾会長さんが、セミナーでやっているような感じで、これは非現実的ではないと思います。ハムフェアや地方の支部大会等でも、やっています。新しい参加者を勧誘した人にも、何か賞品を与えては。 2 24時間ではなく短縮化か、あるいはモーニング部門のような短縮時間部門の設定を。フル参加できない場合でも、不参加になるよりは、短時間でも参加できる部門があれば、少しでも活性化につながると思います。 3 愛・地球博コンテストにあるような、大人と子どもとで、チームとしての部門の創設を。地域(学校)で、クラブとしてマルチオペ部門に出るには大人数が必要で、2TX部門にしてもレベルが高すぎます。学校クラブと同様に、親子や地域での青少年のサポートが、アマチュア無線の将来につながると思います。血縁関係のない大人と子どものペアでも、子どもが複数でも可能になると参加形態の幅が広がり、FBだと思います。少人数の学校クラブも、この形態で楽しめると思います。 4 コンテスト入門セミナーの開催を。以前、県支部として開催したことがあります。県内の学校クラブに声をかけて、交流会を開きました。ぜひ新しく多くの人が、アマチュア無線の楽しみ方の一つとして、コンテストの楽しさを知ってほしいです。そうでないと、新しい人が入らず、先細りになってしまいます。YOTA-Japanの皆さんが時々やっているようなものを、日本各地に。 また、ここからは、活性化とは別の視点からですが、 5 週末でなく、祝日の開催へ。 かつてJARL本部主催の国内コンテストは、6Dとフィールドディ以外のコンテストは、祝日の前夜から24時間行われていました。これは周辺国に迷惑をかけないため だったと理解しています。それが、土日に行われるようになりましたが、周辺国へ迷惑になっているのではないのでしょうか。(もしも日本の周辺国で、週末を使った国内のみのコンテストを大々的にやっていたら、邪魔だと思えます。) 以上が、2021年以降についての私の意見ですが、2020年のみ、オリンピックがあるので、特例と考えたいです。ハムフェア同様に。フィールドディも全市全郡も、オリンピック期間中の開催を避けてほしいです。フィールドディコンテストを別の日に実施する。あるいは9月の4連休に2020年だけ割り込ませてもらうか、あるいは5月6日。(11月や2月、3月は、寒くなったり、場所によっては雪があり、真夏同様に、命の危険があるので、不可能。) 全市全郡コンテストを、例年通りに10月に実施するか、2月23日の天皇誕生日(2020年は日曜で、翌24日も振替休日)に実施するか。あるいは4月29日昭和の日、もしくは5月6日も可能性ありではないでしょうか。おそらく黄金週間中は、「ALL JAから近すぎる」という意見があるでしょうが、「2020年は特別な年なので」で、両方実施するか、あるいは「特別な年なので」と、まとめてどちらか一つの開催にするという方法も。 最後に、私の意見をもう一度 2020年限定で 1 フィールドディコンテストの五輪期間中の実施を避ける(ハムフェア同様に特別な年として) 移動候補日 9月の4連休、5月6日 5月はまだ学校クラブに入って日が経っておらず、無線従事者免許を取得出来ない部員がいるので、9月の方がベター。(既存のコンテストには、2020年だけお許し願いたい) 2 全市全郡コンテスト 例年通りの開催か、2月23日天皇誕生日に。 2021年以降フィールドディコンテストの実施日変更を反対。アマチュア無線活性化のために、夏休み中の実施が重要。
JE3QOL	メーカーとの共催でコンテストを行い、参加賞を全員に配るのはどうでしょうか？JARLコンテストに参加し、申請書を出して何もなし。それでモチベーションがなくなる理由は次のようなものでしょう。・入賞は無理。・First JCC,JCGのカードが得られない。JARLの指導: コンテストではQSLは出すな。・JARL NEWSには、上位入賞者しか載らない。

コールサイン	その他の意見
JH4OUH	全市全郡コンテストは、FD同様に土曜日18時～翌12時までに変更する。 VUHFでの参加局にとっては、コンディションの良い5～8月開催のコンテストの方が楽しめる。 5月または6月にJARLコンテストを開催してほしい。
JL3JRY	「全市全郡コンテストの入れ替え」と、すでにコンテスト委員会の見解で できるように読み取れる意見募集の方式に違和感を感じます。コンテスト委員会の見解が変更理由に書かれているが、「10月中旬は温暖で、野外活動の適期である。」の1項目でも 北日本ではこの時期はすでに寒く適期ではない、山間部に移動するなら なおさらであるとの意見も聞きます。FDコンテストの時間変更も、地元クラブの恒例行事を大きく変更される 結果となっています。どうか、広く意見を募集し開かれた形で規約変更を 検討されることを切に希望します。
JA7NPV	世の中の流れとしてECOイズムが当たり前である コンテストパワーがH、M、L、Pであるが、もっとQRPを評価してもらえる配点、コンテストのイベントの企画を 考えてはもらえないだろうか。 そしてQRP送信機の定義ももっと厳格し明記してほしい。 本当にQRP局かと思うほど疑いたくなる局もいることも事実。提案として春のALLJA/QRPコンテスト、秋のQRPコンテストなどがあつらいたいと思う。 QRPの電波を効率よく飛ばそうとするためのアンテナ技術も高まるし、それをさらに補おうとする 移動運用も活発になる。 そのことで先々、コンテスト参加局が増えるきっかけにははしないか。
JR6KBF	フィールドデーコンテストの日程変更について、案どおりに日程が変更された場合は、FDコンテスト開催時の野外での活動が安全になる以上、同コンテストの目的(JARLコンテスト規程第2条「野外へ移動して運用するアマチュア局との交信をはかるため」)に反する(百歩譲っても目的に合致しない)ホームステーション同士の得点は0点とすること(以前のルールに戻す)は当然に必要。
JK1VUZ	・ALL JAと全市全郡の開催時間について 現在は21時～21時ですが山岳移動でフルタイムに参加するには山中に2泊する必要がありハードルが高いです。土曜休みは一般的になっていますし、24時間コンテストであることには意味がありますので、開催時間を全体にシフトして、12時～12時や15時～15時など1泊で参加できる時間に変更することを提案します。 ・QRP部門について 6m AND DOWNとフィールドデーにはQRP部門がありますがオールバンドの設定だけになっています。山岳移動(徒歩)で参加する場合はほとんどQRP運用ですが、シングルオペでオールバンドの設備を担ぎ上げるのは困難なため、せつかくのQRP部門にエントリー辛いです。ALL JAコンテストのように、各バンドでQRP局を表彰する方式にしていきたいです。全市全郡コンテストについても、現在はQRP局の表彰が50MHzまでしかありませんが、430MHzまで拡大していただきたいです。 ・フィールドデーの局種係数について EVが普及し自動車移動運用での大容量電源の確保が容易になっています。EV電源による運用はフィールドステーションBとするとか、徒歩移動局(あるいは可搬電源)の局種係数を増やすなど、電源確保の難易度が高い徒歩移動局の差別化を図ることを提案します。 ・全市全郡のマルチについて 東京23区と政令指定都市は区がマルチになっていますので、面積の広い郡部についても町村別のマルチとすることを提案します。
JJ4MEA	以前は参加証を集めて日本MAPを楽しみにしてましたが廃止以来 コンテストには殆どログ提出しなくなりました。コンテスト参加局にはタイミング合えばサービスするだけになり参加局も激減し寂しいコンテストになってます。
JA3GJQ	夜中のコンテスト時間は健康上宜しく無いと思います。最近各支部のコンテスト時間は24:00迄、06:00から再開が多いようです。中には、12:00迄13:00再開 1時間お昼休み。高齢化のハム人口で無理のないタイム設定が必要。
JG2BVO	全市全郡コンテストのVUHF部門は局数とマルチが比例して増えていく傾向になるため、どうしても関東平野とその周辺部分のみのコンテストになってしまう。市・郡のマルチが多い場所が必然的に有利になるので、是正する方法はないだろうか?たとえば、現在24時間やっているが、開催時間を極端に短くするなど。 SHF帯のコンテストはどうしても参加局数が少なくなっている。相手が少ない、このために装備を持ってこなくてはいけないなどが悪循環として働いているように見える。2.4G以上のバンドの場合①開催時間を極端に絞る(たとえば真夜中の2時間程度でもいいではないか)②出る周波数を指定する ③複数部門への参加と入賞を認める(たとえばC50とC2400を同時にエントリーできるようにする)など、バンド防衛の意味を含めてインセンティブを与えるようにできないか。
JA1CTZ	フィールドデーコンテストの日程変更に関係しますが、8月の移動運用の熱中症予防対策としては開催時間の短縮も検討に値すると考えます。 2015年にコンテスト開催中の熱中症予防対策として開催時間が変更されたものと解釈していますが、開始時間が3時間早くなった事により移動設営時の熱中症の危険性が浮上したものと考えます。それであれば開始時間を従前の21時に戻せば対策になると考えます。 一方、その分終了時間を3時間後ろ倒しすると今度はまたコンテスト開催中の熱中症の危険性が浮上するので、終了時間を12時としコンテスト開催時間を15時間に短縮すれば良いと考えます。 終了時間が12時であれば、コンテスト終了後の昼食、休息が可能となり移動撤収時の身体への負担も緩和できると考えます。 要は熱中症の危険が最も高い時間帯の活動を避けられるようなスケジュールにすれば良いと考えます。
JH8FIH	・160mバンドの使用 バンド幅は狭いですが、工夫により各種コンテストで活用されています。是非、JARLコンテストでも使用周波数としていただきたい。 ・短時間参加部門の創設 フル時間のコンテスト参加は、仕事や体力の関係から厳しいこともあり、短時間部門の創設を希望します。例えば初日の21時から0時までの3時間参加部門と2日目の9時から15時までの6時間部門等です。
JA1UMW	ニューカマー向けの新人研修コンテストがあつたらおもしろいんじゃないかなと思います。 ・常時場所都道府県内と20局交信しよう・常置場所エリア内で100局交信しよう・レピータ経由で交信してみよう・他エリアと交信してみよう ・自作のアンテナで交信してみよう・支部大会に参加してみよう・ハムフェア(地方可)に参加してみよう・記念局を運用してみよう みたいな、従来のやり方に囚われない、交信だけを目的とせず、ハンディ機1台で、アマチュア無線の多様な遊び方でステッカーがもらえて、台紙を埋めると修了証書アワードがもらえるコンテストがあつたらすぐワクワクすると思うし、免許取っただけで何したらいいかわからないまま終わっちゃう人を救えるんじゃないかなと思います。
JF2QNM	1.各コンテストの自己申告得点結果を、締切後1週間で発表してほしい。今は、半年以上かかり一生懸命参加したのに失礼です。 2.最終結果も、3か月以内に発表する。2年間の移行期間ののち、手書きのログは受付廃止とする。ログ手入力のページ作る。 3.jarl.jarl支部主催の全コンテストの結果集計し、年間ランキング掲載、1位はドナーを募りハムフェアで表彰する。 4.jarl会報もWeb化がされてきたので、コンテストの結果は、入賞者だけでなく、全員のせるべき。 せつかく参加しても、載ってないと意欲がでない。
7N1PFW	・コンテストバンドの見直しを強く希望します。具体的には以下の通りです。 1.9MHzバンドの復活 50MHzバンドの周波数帯見直し(CWは50.050～090、SSBIは50.200～300或いは50.400～50.550) 現行ではSSBでFT8等のデジタルモードとの混信が回避出来ません。実際に、FT8運用を語る者から執拗に混信のクレームを受け妨害されております(偽コールサインでした) ・コンテストの電話部門使用モードの見直しも希望します。AM部門を50MHz帯以上で設けて頂きたい。D-STAR部門は参加局が少ないので、廃止も含め見直し願いたい。残るのであれば、C4FM部門もつくるべき。D-STARだけがよくて、C4FMがダメな理由がわからない。D-STAR部門にレピーター使用部門も設ければよいのでは?(レピーターの愛好者にはかなり受けるといいます)・FDのモーニング部門の様なハーフタイム参加部門等を他のコンテストにも設定してほしい。現状ではフルタイム参加は厳しい。加えて、FDや全市全郡にHF帯やV/UHF帯マルチバンド部門も設けてほしい。オールバンドでHF～UHF/SHFまで運用するのは厳しい。
JR8DAG	コンテストの開催によりアマチュア無線の振興を図る観点から以下の提案を行います。 ・現在のコンテストに使用できる周波数ではなく、コンテスト使用してはいけない周波数を設定する。コンテスト使用してはいけない周波数は海外との交信や月面反射通信(EME)などに使用される周波数に設定し、それ以外はバンドプランに従っていればコンテストでの運用を可能とする。現在のコンテスト周波数は使用頻度の少ない周波数に設定されており、特に人口の少ない地域におけるコンテストでは参加局の減少につながっている。 ・QSOパーティは開催期間の延長のほか、20局以上と交信できないとログが提出できない規約となっているが、(ステッカーの発行は20局以上を維持したまま)これをログ提出は1局以上の交信で可能とする。なお、20局以下の交信であっても何らかの参加賞が発行されると望ましい。 ・現行のコンテストアワードを拡張したコンテスト参加記念賞状の発行を提案する。現行でもコンテスト参加記念楯制度があるが、発行手数料が6,000円と高いので、これをコンテストアワードの発行手数料と同価格500円(JARL非会員は1,000円)の申請料で賞状を発行するものである。賞状の絵柄は各コンテストの賞状と同じものとし、申請期間をコンテストアワードと同様の申請期間(コンテスト終了後3か月以内)とすれば良いと考える。 ・各コンテストのログの意見欄に何らかの記述をした参加局から抽選でQUOカードを進呈することを提案する。意見欄にはコンテストに対する意見だけでなく、コンテストでの運用の感想、参加するにあたっての苦労話などを自由に記載してもらうようにする。これらの記載は他のアマチュア無線局にとって参考になると思われるため、できる限り記載してもらうような働きかけは重要であると考えます。
JA3TVQ	私は一番移動しやすいのは 朝、家を出て 現場に行って 数時間運用して やりつくしたら帰るパターンだと思います コンディションに合わせて 移動する事も可能です。マルチバンドでの参加には 12時間必要でしょうが シングルでは6時間もあればOK 15時終わりでしたら 9時スタートの15時終了で 6時間思いっきり無線して おかたずけて 帰れば丁度になりそうに思います。 9時から10時スタート15時終了の時短部門も 面白そうです。 皆さん年取ってききましたから お泊りはきついです。 FD での周波数も楽しいと思います 只 SHFになると 交信の機会は少なくなります そこで 2日目の 12時から15時までの3時間 1200Mは 毎時 00から30分 2400Mは 30から40分 5600Mは 40から50分 10G以上は 50から 60分 とか 推奨時間を 主催者が発表してくだされば CQ出しても アンテナ廻して ワッチしても 期待が持てると思います。自由であるというのと 外れても違反ではないというのを前提に PRLして設けていただければ 昼の3時間ぐらい移動するか という気になりそうです。
JJ1ARI	QSOパーティーで20QSO達成できなくてもLOG提出した会員にシール以外の参加賞を送付するようになればもっと参加者が増えると思います。
JH1MBI	4-2の日程変更は2020年から実施していただきたい。
JF3EBO	コンテスト結果発表まで現状3-4ヶ月だが、2ヶ月程度まで短縮してほしい。そのために、ログ提出の締切も短縮してほしいと思う。Log Check Report到着から結果発表までの期間も短縮してほしい。結果発表の短縮や過去の記録の整備にリソースを集中してもらうのが一番ありがたい。
7M3EFK	以前にもコンテスト委員会に提案したが、サマリーリストのフォーマットをR1.0に戻してほしい。バンド別に局数 マルチが表示されるので、翌年の参加時に目標設定の参考にしている。R2.0に変更したメリットと理由がわからない。当局は警告が出るが R1.0で作成して提出している。
JK1VZK	・「呼び出し周波数」「非常通信周波数」の使用禁止を明言してください。 ・クラスター等は使用禁止としてください。 ・電話と電信のポイント差は必要ありません。このご時世電信は付録で問題なし。バンドによっては電信の方が出ている局が多い。 ・FD コンテストの常置場所同士の交信のポイントは以前のように0点が好き。したがって、常置場所局は50Wより大きい出力でも問題なし。 ・FD コンテストのスタート時間は21時の方が好ましい。落雷の危険がある。(落雷のピークは16～18時)夕食の準備や後片付けをする時間がない。土曜日が仕事の方でもスタートから参加できる。

コールサイン	その他の意見
JK2CUT	<p>■開催時間の見直し 電波伝搬の観点などからも24時間コンテストの持つ意味は理解していますが、実際には深夜0時から朝6時までのポイント数はあまり上がりませんし、最近では24時間は体力的に厳しく、労力に比べて得るものが少ないです。寝てはならない「徹夜」を暗示させるルールはHAMの高齢化などの観点からも、JARLが率先して完全撤廃する姿勢を示すことが大事だと感じています。具体的には深夜0時から朝6時までの時間帯の除外を検討していただきたい。</p> <p>■ログチェックレポートの意義・意味 相手局の送信ミスも受信エラーとされてしまう矛盾や、ユニークコールサインをチェックする意味、等々、ログチェックレポートの持つ意義、意味、ロジック、について全く不明です。同じJARLが主催しているアワードの審査はここまでやっていないはず。なぜコンテストだけがガチガチなのでしょう。普通、スポーツの世界でもどのような競技であっても、ルールが明確ではない競技などありません。もしやるならば、ログチェックレポートのすべてを公開するべきです。基本、ゴルフと一緒に自己申告制ではダメなのでしょう。</p> <p>■結果発表が遅すぎる ボランティアで組織を構成されていることは知っていて感謝しかありません。その上で申し上げます。あまりにも、結果発表が遅すぎます。遅くとも2ヶ月以内には結果発表して欲しいと思います。早期化するために、総得点数上位局だけの審査や、紙ログ廃止、ログ受付期間の短縮など、慣例にとらわれないダイナミックな改革を実施してください。</p> <p>■紙ログについて もうこの際、紙ログは廃止しても良いと感じます。ログを受け付けるが入賞はできない。という規定が良いと思っています。結果発表の遅延の改善にも寄与する改革をお願いします。</p> <p>■JARL非会員局の扱い JARLが主催しているアワードと同様に“参加費を払えば入賞”できる制度を設けたらいかがでしょうか。(どのくらい対象者がいるかわかりませんが) JARLの新たな資金源の一つとすればよい。</p> <p>■FDコンテストのルール 商用電源の使用の有無が他のコンテストと趣が違うだけで、QSO数を競うという意味では通常のコンテストと同じです。ARRLに準じて、非常通信のエッセンスを取り入れる趣の変わった形に進化することもJARLとして検討していただきたいと感じます。■zLogからのデータ変換ツールの提供市民権を得ているzLogに関しては、サマリーシートのバージョン問題に対して、他ログインツールにデータ移行してからR2.0を出力するなどの手段ではなく、競技主催者のJARLから正式に「これを使いなさい」とコンバータを提供していただきたい。</p>
JR3QHQ	<p>まずもって、JARL NEWSでの意見募集には、致命的なミスがあります。募集記事に投稿先、連絡先等についての記載が無い。これでは、会員平等に多くの意見を聞いたことになりません。よって、この意見募集は、全くの無効です。また、この意見募集は、委員会の意見に誘導する内容があります。このような、会員の意見を自分たちの意見に誘導するような意見募集は、大変卑怯です。こんな事しかできない委員長は、即刻辞任すべきです。この意見募集は、無効であると言う事を前提に回答します。</p>
JJ1HHJ	<p>令和元年台風第19号の接近に際し、全市全部コンテストの規約ページhttps://www.jarl.org/Japanese/1_Tanoshimo/1-1_Contest/all_cg/allcg_rule.htmに無理のない運用の呼び掛けを掲出されたことは良かったと思います。しかしながら、これはコンテスト委員会ではなくJARL本体の業務であると理解しておりますが、この呼び掛け、併せて非常通信周波数や非常通信に関する注意喚起、またコンテスト開催可否やその検討経緯等のリアルタイムでの発表といったことを、コンテスト規約というサブページではなくJARLウェブサイトのトップや各種SNS、その他アマチュア無線系メディアを通じて広く会員・参加予定者に伝わるかたちで行うべきでした。過去にも同様の状況が複数ありながら、何故JARLは主催コンテストに際して未だに一切の中止の検討・発表や注意喚起等をしていない、またはできないのか、甚だ疑問に思うと共に、主催者として無責任を言わざるを得ないその態度に不信の念を禁じえません。現在の組織では状況に応じた即座の判断が不可能であるというようなことであるならばせめて、次回以降の規約に、例えば「災害発生時またはそのおそれがある場合にはコンテストを中止する可能性がある」旨と中止になる条件を明記し、それに従って粛々と対応できる体制を整えるべきではないでしょうか。</p>
JE0GIH	<p>青少年育成といいつながらコンテストでは配慮されていない。22歳以下の部門を設けて若い人が参加できる取り組みが必要。若い人と交信した場合は、ポイントアップといった仕組みもあつた方がいい。</p>
JL3DYW	<p>コンテストのその他意見について ルール改正前に会員に十分な意見を募っているのだろうか。また、参加者がどのような意見があるか、コンテスト結果発表と一緒に意見欄に記載している内容の公表を望みたい。</p>
JH3AIV	<p>提示されていた文章は、公平な立場で募集をされたものではありません。 コンテスト委員の方の意見に誘導する内容であり、FDコンテストに参加している方の意見を参加していない局の動員で決定するようなもので有とおもわれます。 今回の意見募集自体無効と判断いたしますが、意見書はとりえず添付のPDFファイルで提出いたします。</p>
JH2UVB	<p>10W越えの電信部門はあるのに、なぜ電話部門の10W越えはないのか？ もちろん電信電信部門に参加可能ではあるが、電話でしか出ない局もいるので、参加部門の枠を広げてほしい。</p>
7K1BIB	<p>1 コンテストと災害 今年の全市全部コンテストは、関東地方への台風19号の接近と重なった。一部には、コンテストは中止すべきとの声もあったが、台風の影響がなかった地域もあるから、中止する必要はない。むしろ、コンテストを中止してバンド内が閑古鳥になるよりも、多くの局が出ている方が、非常通信も拾ってもらいやすくなると思う。 そのような趣旨を貫徹するために、コンテスト委員会からは、注意を喚起するアナウンスだけではなく、例えば以下のような、非常通信との関係を具体的にアナウンスされることをご検討いただきたい。 ①非常通信を最優先とし、非常通信が聞こえてきたときはワッチに専念すること。 ②情報の伝達ができる環境にある局は、コンテスト中であっても、無線または公衆回線を用いた情報の伝達に協力すること(情報伝達に協力したコンテスト参加局は別に表彰することも検討に値する。) ③災害が予測される地区において非常通信周波数が定められているときは、その周波数を周知させ、その周波数はコンテストには用いないこと。 2 意見募集について 今回のアンケートのように、JARLとして会員の意見を募集することはとてもよいことだと思う。他の事項についても、このような意見募集を積極的に行っていただきたい。</p>
JF1IIP	<p>●「ハンディ機部門」の設立を希望します。 昨今、144/430MHz帯ハンディ機で開局するジュニアハムが数多くいるのはご承知の通りと思います。しかしJARL主催のコンテストには、ハンディ機で参戦して上位を目指せるものは全くなく、多数の参加者がいるコンテストで運用してもその魅力は半減、いやそれ以下と思います。そして若年層の会員を増やすというJARLの方針を考えれば、若年層の持つハンディ機に着目すべきと思います。 また現行のハンディ機は最大出力5Wのものが大多数と思いますが、絶えず最大出力で使えば安全装置によりパワーダウンするか、従来型であれば火傷するほどの熱が出て、無理がかかっているのが体感出来ると思います。このような経験は、結果として壊さないように使うための勉強にもなり、後にオールモード機などを購入した際にも知識が活きると思います。 これらを踏まえ、6m AND downコンテストとFDコンテスト、全市全部コンテストには「電話 シングルオペ 144/430MHzハンディ」「電話 シングルオペニューカマー144/430MHzハンディ」部門の設立を、さらにFDコンテストには、これらに加えて「電話 シングルオペ 144/430MHzハンディ モーニング」部門の設立を希望します。また規約作成にあたっては「空中線電力5W以下、FMモードまたはD-STAR DVモードとする」の記載を希望します。</p>
JE4YLV	<p>開催時間が同日の9:00～15:00など比較的短時間かつ夜間を含まないコンテストをJARL本部主催で既存のコンテストに追加して開催していただきたいと考えております。既存のコンテストでは参加時間が長く2日間にまたがっていることにより参加時間を確保できなかつたり、体力的な問題から参加を断念する局がいることは容易に想像が付きまます。短時間のコンテストを追加することでコンテスト参加に対するハードルが下がり、より多くの局が入賞目指して意欲的にコンテストへ参加する可能性を開けることから、アマチュア無線全体の活性化につながることができると考えられるためです。</p>
JA3KDJ	<p>コンテストでの交信証明書の交換が必要でないようにe-qs1のPRをもっと本腰を入れてやりませんか？2か月に1度カードがきますが、その多くはコンテスト参加時の交信証です、同じ局長のカードが10枚近く同じ配送日に入っていますとみる気もしいです。e-qs1 をPRして頂き多様なアワードに使えるように運動性を持たせて頂ければ、紙切れは欲しがらないのではないのでしょうか。そうすればJARLのQSLビュローの負担も軽くなります。<ルール改正前に会員に十分な意見を募っているのだろうか。また、参加者がどのような意見があるか、コンテスト結果発表と一緒に意見欄に記載している内容の是非とも見てみたいデス。</p>
JR3CNQ	<p>・ルール改正前に会員に十分な意見を募っているのだろうか。 2. 3名の意見を聞いて変更しているーJARLコンテスト委員会は機能しているのか？ JARLコンテスト委員会の会合は開催しているのか？ 議事録はあるのか？ JARLコンテスト委員会はJARL一般会員から見て不信感だらけである。 ・意見欄に記載している内容の公表を望みたい。</p>
JP3AQR	<p>● QSLカードの転送を毎月にして欲しい。(大変なことは承知していますが…。)</p>
JE1BMJ	<p>・コンテスト委員各氏には毎度開催、審査、規約変更の労を執っていただき有難うございます。この機会に謝意を表します。 ・50MHzのコンテスト周波数について 以前は50.050-090がCW、50.250から上がフォーンだったが、「DXとの混信を防ぐため」という理由で、拙速で50.250-300がCW、50.300より上がフォーンに変更された。 現在は太陽活動最低期であり、強力なDX信号は全く期待できないものの、微弱な信号でもQSOできるデジタルモードの発展によってDX QSOが行われている。 現状では、DXは50.100-50.150のCW/SSB、それ以外はほとんどがデジタルモードに移行しているため上記の理由は成り立たない。 現行のコンテスト周波数帯には50.276、50.313などのデジタルモードの周波数が含まれ、コンテスト時に大きなQRMIになり、特に6m and Downコンテストでは「DXとの混信」が多発する事態になっている。 また、50.250-50.300のCWバンドの上の方はSSBのスピリアスによる混信を受け、50.290-300はCWでは使えないことがある。 これらから、CWバンドは50.050-090に戻すとともに、フォーンは50.350から上に変更することを強く要望する。 ・All ASIAN DXコンテストのナンバーについて ナンバーに年齢が使われているが、年齢は個人情報であり不特定または多数が聴取している無線で送達するのは適切ではなく、このままの規約で開催を続けることは DXコンテストの主催者として、個人情報の適切な保護に配慮を欠くと解釈されるおそれがあるし、JARL規則第11条に謳う「個人情報の保護」にも抵触すると考えられる。 また女性参加者だけ年齢を送らなくて良いのは公平ではない。しかも、このコンテストで交換される年齢はマルチとして通用しない、単なるシンボルである。 これらは参加者が減少している一因と考えられる。 提案として、女性は年齢、00、またはYLを送る。 男性でも年齢を送って構わない参加者は年齢を送れば良いが、それ以外の男性参加者は01または、YLを除くAA～ZZなど特定のナンバーを送ることにしてもらいたい。 AA～ZZの部分は毎回変更しても良いが、同一コンテスト中には変更できないこととする。 あるいは女性はYL、男性で20歳未満はYM、60歳未満はAM(大人)、60歳以上はSM(シニア)、70歳以上はOM(またはOT)など、カテゴリー分けてナンバーを簡素化しても良いのではないかと。 ・ALL JAやACAGのコンテスト時間について 24時間のコンテストは長すぎて健康に悪いし、準備と撤収の時間を合わせると最長で土日月の3日間に渡る。 例えば3時間単位で休憩を数回挟む、または21時～23時59分と翌日06時～20時59分の開催とし、午前0時00分～5時59分は中断するなどで実質18時間とすることを提案する。・ACAGのナンバーについて 郡、区ナンバーが長すぎて公平ではない。数字やアルファベットを使い、12AA+電力符号のように、全部4桁+電力符号の5桁にするのが望ましい。 先頭の数字2桁は都道府県ナンバー、次の2桁は、数字なら01～99で99通り、アルファベットならAA～ZZで676通りのナンバーができる。 01～99またはAA～ZZには、その都道府県内の市郡区を順番にあてはめておき、規約で公表する。59(9)1201P、59(9)12AAP、59(9)1011H、59(9)10AKHのようになる。 ・人気のないコンテストの整理統合 参加者が少ないコンテストは整理して廃止、統合しても良いだろう。FDをALL JAまたはACAGと併催とするなど。参加人数が減少しているのは主催者が一番良くわかっていないはず。 ・コンテスト入賞者への賞品の復活 昔は豪華な賞品が出ていて、不正の温床になっていたと聞く。 現在はログの照会手段があるので、不正はかなり防げるだろうから、メーカー、その他の団体や個人などをドナーにした賞品の復活があっても良いのではないかと。 そうすれば参加者の増加に寄与すると思う。</p>

コールサイン	その他の意見
JO1FHM	JARL主催のすべてのコンテストにおいて、電話、電信、電信電話の3つの部門を設けてほしい。 さらに、それぞれの部門で送信出力5W以下のQRP部門を設置する。 現在、QRP部門は強制的にオールバンドに参加することになっているため、タワーやアンテナなどで設備への投資財力がある局の優位性が極端である。 また、アマチュア無線局の約8割を占める第4級アマチュア無線技士を大切にす姿勢にもつながる。ハンディ機で気軽にコンテストに参加するスタイルこそ、アマチュア無線のすそ野を広げる原動力である。
J17OED	JARLコンテストに対する意見や改善提案等がありましたらご記入してください ログチェックレポートのメールが到着してからコンテストの結果発表までの時間が長すぎる。今年のALLJAは19日、6Dは22日たったがまだ結果発表されていない。 結果発表が先ではないでしょうか？参加証明書をwebからダウンロード出来るようになりますか？CQ WW DX Contestの形式が参考になると思います。
JA3WDL	4-3 その他 (コンテスト中のQSL発行について) 私は、ハムシンポジウム(兵庫県尼崎市 1月末開催)と関西アマチュア無線フェスティバルで、JARLなんでもコーナーを担当して来ています。蛇足ながら開催にあたり手弁当で参加しています。ビューロー宛のQSLを預かって来ていますが、確かに今年から、扱いの量(ミカン箱数)が、例年に比べ2箱程少なくなっています。HFのコンディションが悪いと言うこともあると思いますが、私も関西では「コンテスト中のQSL」を無差別的に発行するのを止めるように懇意をコンテストルールに付け加えています。この事が、ミカン箱の減少につながっていると思っています。JARL主催コンテストでも、QSL発行についても懇意をしてください。
JR6IKD	希望: オールアジアコンテストについては毎年電信部門と電話部門を入れ替えて欲しい。 理由: 電信部門の日は毎年田植えに重なり電信部門に参加出来ない事から2年に一度は電信部門に参加したく毎年入替えをお願いします。(個人的な理由で申し訳ありません)
JO1DGE	○今年初めて、ハムフェアでJARL要員として、モールズ通信体験コーナーをお手伝いさせていただきました。私でもつとまるのかと心細かったのですが、いっしょに活動して下さった方々ととも充実した時間を持つことができました。 アマチュア無線に興味を持ち、なおかつモールズ通信にもチャレンジしてみようとする若い人との出会いは、頼もしさを感じました。そんな中、上級ライセンスを持ち、電信での交信をしたいと思いますという人が、実に多いことに驚きました。国家試験から電信の試験がなくなってから久しいです。しかし、潜在的にモールズ符号をたくみに使って交信してみたいというお気持ち強く持っておられるのです。なかなか1人で電信の交信を始めるというのは敷居が高いです。各地でハムの祭典が多くなり、支部での大会もあります。そんな中で、電信での交信の支援アドバイスをマンツーマンでできたら、多くの人が電信での交信でアマチュア無線の楽しみの幅を広げられるのではないかと思います。今回のハムフェアでの貴重な体験を通して、私のような者でもそのようなことに力になれるのなら、積極的に出ていこうと思うようになりました。
JA1MJN	コンテスト結果の発表を早めて頂きたい。(終了後2ヵ月以内を希望します)
JA1MUY	1年間に沢山のJARLコンテストが開催されています。本部、地方本部、支部のコンテストの開催日や時間がわかりやすい表などを掲示していただくと参加しやすくなると思います。JARLの本部、地方本部、支部でコンテストが開催されておりますが、ログの提出方法が異なっております。統一されることを強く希望します。
JJ1MTG	若い人に参加してもらうということでJARLは色々努力されているが、個人の趣味としてやれることがこれほど多様になったことは有史以来ないと思う。SNSやメールで全世界とつながれる。従ってコミュニケーション的な機能では勝負にならない。どちらかといえば電気・電子工学的な興味を持っている人にターゲットを絞ってハムの認知度を上げるのが効率的だと思う。どんな時代になっても工学的な分野に興味を持つ人は一定数はいるはず。 ・小中学校〜クラブ活動の支援。私も中学生の時真空管ラジオの制作を体験して興味を持った経緯がある。 ・高校以上〜工業系の学校に対して広報をする。ハムフェアだけでなくデジタルアーカイブとか各種の通信の実例を教えてもらえる場所としてのJARL事務局とか。
JA2JWH	○WARCバンドだけのコンテストを実施してほしい。 ○アジア地区対象のコンテストを増やしてほしい。 ○学生や、開局して五年以内の新人の方が主役のコンテストを創設し、ハム人工の拡大を推進してほしい。
JO1KTD	コンテストは楽しませていただいております。今後も多くの方が安全に楽しめますよう、真摯なご議論期待しております。
JR1SIM	1971年に「VHF」と「2m & down」が統合されて「6m & down」となったと同時に「フィールドデイ」に「エマーゼンシー」が統合されたが、エマーゼンシーの特徴を引き継いだのは電源の種類くらいである。 夏のコンテストは、仮称「サマーゼンシー」として非常通信周波数4630kHzの訓練を兼ねるものとしたらどうだろうか。この周波数は漁業用海岸局が防衛省の無線局しか割り当てられておらず、年一回の訓練ならば総務省の了解も得られやすいだろう。むろん局数を競うものでなく、JARLや日赤奉仕団など一部の社団局が間歇的に(毎時0分と30分から10分間は聴守時間であるから)交信し、その他の局は訓練として1回のみ交信する。交信のみではなく受信だけでもしたらボーナス点を与えるものとするれば、4アマでも参加可能である。8月上旬は台風の季節入りで1ヶ月後の9月1日は防災の日であり、非常時の社会貢献を考える機会にもなる。
JH1YDT	JARL 形式電子ログについて 近年サマリーシートR2.0方式が制定されたが、これはデータの冗長性(データ不備・故障があった際の修正可能性)の観点からすればあまり評価できる変更ではなかった。また、ログ部分もある程度のルールが定められたが未だ明確に規格化・標準化されていない。この状況は、JARL 支部・地方本部を含む多くのコンテスト主催者にとって、集計の効率化を妨げる大きな要因になっている。国内独自形式に固執するのではなく、世界標準となっているCabrillo形式への統一を一刻も早く実現されたい。これは、運営者側だけのメリットではなく、コンテスト参加者の啓発という意味でも、誠に早急に取り組まれるべき問題である。
JK1JHU	全市全郡コンテストについて FDのために、全市全郡の開催日の変更という案ですが、単に開催日を変更しても全市全郡の面白みは増加しない。全市全郡は、都市部のVUHFで局数マルチが獲得しやすいため地域間格差があるという意見をよく耳にする。オールバンドは、3.5〜50MHzと144MHz以上の2部門に分けることが一つの解決。現状発売されている無線機の多くは、上記のバンド割に合致する。
JH7VVR	2020年8月1週目のコンテストの開催に反対します。 理由: オリンピック期間中は前例により1.2Gレベータ停止の依頼が出てFPVが稼働する恐れがあります。また既に競技施設周辺での不要電波受信システムの計画も進行しております。(東京だけでなく、他会場も含む) この他多くの急造システムへの影響を与えないために、コンテスト開催は断念すべきと考えます。また大会期間中は観光客が史上最大となるのは必至で、加えて温暖化による昨今の災害は、来年も拡大し発生すると思われ、またテロの懸念もあり、非常時に備えBandはクリアしておくべきであるという観点からも提案させていただきます。(先の台風19号でも全市全郡は行われましたが、これへの批判も必ず出ます。開催/非開催どちらでも非難されるなら、多くの人が納得する方を選択すべきだと思います)コンテスト委員の労力を更に削ぐ内容ではありますが、もしもの事が発生してからではリカバリがもっと大変です。アマチュア無線全体への影響を考えていただきたい。推察するとHam人口は文科系の方が多く、スポーツに興味がない方も多いと思います。しかし、ニュース番組にスポーツのコーナーがあるように、一般人のスポーツへの興味は高く、ここへの影響は0とすべきと考えます。
7K1PEO	50MHz帯コンテスト周波数の変更 50.3MHzのコンテストフォーン帯は昔からSSTVや最近ではF8を使用したデジタルバンドとなっています。近年FT8等がブームでありDXも手軽に出来ることからコンテスト中でもこの近辺の周波数を使用している局が多くなってきました。デジタルモードを使用している局は混信などの耳障り(?)も感じる事なくかつ、こちらが使用しているにも関わらずひたすら送信してくるのはご愛敬(?) いっそのことコンテスト周波数をもっと上に変更してみてはいかがでしょうか? 現状、50MHzは50.6MHzから51.0MHzまでほぼ使用していないと思われます。
JA3LXI	「全市全郡コンテストの交換するコンテストナンバーに関して」 (背景) 去る10月12日〜13日に開催された全市全郡コンテストに初めて参加させていただきました(XAMシングルオペ、運用住所は新潟市西蒲区。市・区・郡ナンバー080101) (感じた問題点)・当局の場合主にCWで運用しましたが、コンテストナンバーが6桁となり、4桁の局に比べて送信時間および相手局の受信負担が大きい、とハンディキャップを感じました。・つまり、運用住所により交換ナンバーが4桁、5桁、6桁の違いが生じて、ルール上公平でなくなっているという印象です。 (ルール改定等改善への考え方) 1. 現行の市・区・郡ナンバー表を変更する。・地域割りを変えて、4桁あるいは5桁で全体を統一する。・現行地域数を変えないで桁数だけ6桁で統一する。 2. 市・区・郡ナンバー表は現行通りとして、得点計算時に補正係数を導入する。・コンテストの得点計算時に、例えばナンバー6桁の地区での運用局には20%、5桁局には10%のハンディキャップ係数を付与する。 (×1.2、×1.1) ・受信局側への補正としては、例えば6桁局、5桁局との交信には得点増加マルチを設定する。
JP3ELG	良かれと思って実施時期や時間帯を変更しても、結局クレームを言う人が出てくると思いますので 出来る限り変更しない方がいいと思います。
JE7IDA	(1) 意見募集はじゅうぶんな期間をとって行われたい 前回の意見募集は学校の夏季休業にあたり、気づかなかったという学校クラブも目立ちました。JARL NEWS がクラブへ渡されるまで日数がかかることもよくあるようです。今回は全市全郡コンテストや台風等の対応もありました。影響がありそうな学校クラブの意見提出が少ない場合は、高校アマチュア無線クラブ連合などに尋ねるのも良いと思います。 (2) 学校クラブはこれから一層厳しくなるので、参加しやすい環境の維持を図りたい 少子化により定員・教員・クラブ数・活動費が削減される場面も出てきています。無線クラブは整理の対象となりやすい反面、力を持つ50代の教職員には資格取得者が多く協力を得やすい面もありますが、退職が近く後は難しくなります。3年制普通科高校のコンテスト参加が大変少なくなったことが指摘されています。顧問の交代が早いこと、資格取得からクラブ引退まで2年弱であることも要因のようです。以前のようにコンテスト以外や自宅での運用で楽しみ経験を積むことは期待できなくなり、複数のコンテスト参加は得難くみんなで楽しめる機会です。高校コンテスト、ARDF参加校の中には、JARLコンテストへの参加を増やしたいのに事情であきらめざるを得ないところがあるものと思いますので、調べれば今後の参考になるかと思えます。
JK2XXK	まずは日程変更案に係る理由へ対する私感を述べたいと思います。 1. 10月中旬は温暖で、野外活動の適期である。 これはどの地域を指して、そのように理由付けなさっているのでしょうか。今年を例にとっても、9月中には北海道の山岳で、10月上旬には東北の山岳で冠雪が記録されました。また10月上旬には群馬県の人家がある山間部で初霜が下りたとの話も聞き及んでいます。南北に長い日本を見渡した時、このような理由付けは、コンテスト委員会の見識を疑います。 2. 7月の6m AND Downコンテストとの入れ替えだが、梅雨期であり、積極的に移動を勧められない。実際には移動する局は少なからずあり、6m AND Downコンテストを8月に実施することは熱中症予防上意味がない。おっしゃる通りですし、6m AND Downコンテストが開催される7月上旬は、V/U/SHF帯において異常伝搬による遠距離通信が最も期待できる時期でもあります。6m AND Downコンテストの開催時期を7月上旬から他へ移すことは強く反対します。 3. 6月のAA DX CW、9月のAA DX Phoneを真夏に実施することはコンディション的にふさわしくない。他の海外コンテストとの兼ね合いも考慮すべきでしょう。 4. その他の月に変更するにしても、すでにほとんどの週末に国内もしくは海外コンテストが行われており、割り込むことは控えたい。 本当に何とかしたいと考えておられるのなら、「割り込む」のではなく、少なくとも関係する国内コンテストの主催団体と協議を重ねた上で日程の入れ替えに同意していただく方向で考えるべきではないでしょうか。この場合、他のJARL主催コンテスト(ALLJA・6D・ACAG・AA-PH・AA-CW)の開催時期を考慮に入れると、5月第3週末と6月第1週末が候補になり得ると考えます。 (A) フィールドデーコンテストの規約 ・移動しない局の出力を50W以下に制限する代わりに移動しない局同士の交信を得点・マルチプライヤーとして認める点を、変更前のルールに戻してほしい。 (B) 14MHz帯以上の電信バンド ・デジタルモードとの棲み分けや昨今のV/UHF帯の混雑状況などを鑑み、次のようにしてはいかがでしょうか。 14.040〜14.070MHz / 21.040〜21.070MHz / 28.040〜28.070MHz / 50.040〜50.090MHz / 144.040〜144.090MHz / 430.040〜430.090MHz (C) 1200MHz帯におけるコンテスト使用周波数帯を新設。CW/SSBのアクティビティが低い地方部における運用の際の目安として設定。 CW 1294.040〜1294.090MHz / AM/SSB 1294.250〜1294.500MHz / FM 1294.900〜1295.800MHz (D) ALLJAスタイルのデジタルモードによるコンテストの新設 ・前提条件: 日本国外からの参加も認める。・バンド: 7〜28MHz帯(3.5MHz帯のバンド拡張が実現した暁には3.5MHz帯も) ・時間帯: 24時間 ・交信相手: 全世界の局(国外局同士の交信も認める) ・マルチプライヤー: (案1) 日本国内の都府県地域+6大陸 (案2) JAのプリフィックス(WPXルールに準拠)

コールサイン	その他の意見
JA3QOS	<p>改善提案: * コンテスト時のカードが大量に送られてきます。 同一バンド・モード等不要なカードを送らないように、呼びかけていただきたい。 * 現在JARL-NEWSIには入賞局のみが掲載され参加局全体の順位を知ろうとするとJARL-WEBでの閲覧が必要となります。 これは地方コンテストでも同様です。しかし多くの人にとってこのことがコンテストに参加しなくなっている原因だと私は思っています。少しの点数でもコンテストに参加すればJARL-NEWSIに自分のコールサインが載る、ということが励みになるのです。これはJARL-WEBに掲載されるのとは同じではありません。ページ数がいくら多くなっても、地方を含む全てのコンテストの(最終)結果をJARL-NEWSIに掲載するよう強く要望いたします。</p>
JR3EOI	<p>8月のFDでいちばん体力を消耗するのは設営です。 設営の時に熱中症になる可能性が大きいと思っています。 FDはバンドの上限がないので、マルチバンドで参加するとき、それを用意するのが辛いのです。</p>
JE3PCX	意見無し。
JO1LDY	特になし。